

「経験から学んだこと」

鳥越小学校 狩俣 麻凜

私たちが通う鳥越小学校は、山間部に位置していることから自宅から学校まで通学する距離が長いため、毎日バスで登下校をしています。

そんなある日、私はこんなおそろしい体験をしました。それはまだ、私が2年生だったころの出来事です。いつも私が学校からバスで帰って来るのを、バス停で待っているのは私のおばあちゃんでした。しかし、その日はたまたま仕事が早く終わったお母さんがバス停で待っていました。

お母さんが私を迎えに来てくれるのは初めてだったので、私はとても嬉しくてはやくお母さんの所に行きたくなりました。バスの窓から外を見ると、お母さんは私が下りるバス停の向かい側に立って待っていました。私はお母さんを見た瞬間、「ただいま！」と、早く抱きつきたくてうずうずしていました。

そして、ついにバス停に到着しバスから降りて、お母さんに向かって一直線に走りだしました。私はもう最高の気分でお母さんに思いっきり抱きつきました。しかし、そのバスが走っていくと、その後ろにいた車がこっちに向かって走ってきたのです。そんなことにも気がつかずに、私は周りを見ずに道路を渡ってしまいました。

次の瞬間、顔を上げるとそこにあったのは、私の気持ちとは真逆のお母さんの心配と怒りに満ちた顔でした。私はびっくりして、急いでお母さんからはなれました。でも、お母さんはだんだんせまってきて「もうダメだ！」と思って目をつぶりました。その後、お母さんの怒りにあふれた言葉と友達の心配の声が私の耳に水のように一気に流れて込んできました。その時、私はようやく自分のしたことの重大さに気が付きました。

その出来事があってから、私はお母さんが迎えに来て落ち着いて、きちんと右、左、右と順番に左右を見て、車が来ていないのを確認してから、道路を渡るようになりました。バスから降りたあと、その後ろから車が走ってこないかな？と、いったん立ち止まって安全を十分に確認することが大切だと分かりました。そして、「交通ルール」は自分の命を守るために大切なことであり、家族の幸せをも守ることになるなんだということを学びました。

これからも、自分の命と家族の幸せを守るために、「交通ルール」をしっかりと守って安全に楽しく登下校したいです。